

仁徳（インドク）大学 ソウル市文化交流活性化支援事業

「2025日韓コンテンツ交流展」、価値あるプラットフォームとしての役割担い融合型文化の新たな道開く

- 9月23日から27日まで5日間開催
- SDGs（持続可能な開発目標）をテーマに日韓のクリエイターおよび地域住民がオンライン・オフラインで参加
- 体験型展示、コンテンツの商品化、特別講義、ワークショップなど複合プログラムを盛況のうちに終了
- 仁徳大学、コンテンツ文化産業の持続的な成長に向けた土台を作る

仁徳大学（総長 キム・グァンマン）がソウル市の後援を受けて主催した「2025日韓コンテンツ交流展」が、9月27日に盛況のうちに終了した。本イベントは、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」をテーマに、単なる展示を超えた文化融合型の交流プラットフォームとして注目を集めた。

○国際的テーマにおける意味・価値・楽しさが一つになる瞬間

仁徳大学のキム・グァンマン総長は、「SDGs（持続可能な開発目標）のテーマをもとにした日韓アーティストたちの作品は、環境や社会的課題に対する深い芸術的な洞察を示す」と述べ、「これを通じて両国のクリエイターが互いの文化を理解し、新たなインスピレーションを得る契機となるだけでなく、日韓のコンテンツ産業の持続的な成長を支える礎となることを期待している」と語った。

今回の展示には、韓国・日本の作家がそれぞれ20名参加し、漫画、写真、グラフィック、映像、AIなど多様なメディアやストーリーテリングで国連SDGsの17の課題をそれぞれの視点で表現した。それらの作品はグッズとしても制作され、市民が実際に体験できるように展示された。



○文化コンテンツを通じた日韓クリエイター間のコミュニケーションの場

多様な分野の作品は、デジタルメディアに慣れ親しんだMZ世代をはじめ、幅広い年齢層の感性に訴える内容で構成された。観覧者からは「グローバルな課題」と「芸術」のつながりに深い感銘を受けたという声が寄せられた。

特に、日本人クリエイターの作品説明や観覧者との質疑応答は、専門通訳サービスにより円滑に進められ、現場の熱気をより一層高めた。





○複合的な体験型展示、ワークショップ、特別講義で地域住民と共感

今回の交流展は、両国の文化コンテンツ交流を活性化するとともに、持続可能な未来への創造的メッセージを発信することを目的とした。

鑑賞にとどまらず、観覧者が直接参加できる「体験型コンテンツ」をはじめ、漫画、写真、グラフィック、イラスト、映像、AIなど多様な分野の作品を融合した。さらに、本イベントのテーマであるSDGsに関するワークショップや特別講義も開かれた。

参加者には、地域の児童・青少年から他地域の大学院生・留学生、地域住民に至るまで多様な層が含まれ、地域社会との連携と交流が大きく強化された。特に、参加と体験を重視したプログラム構成は、従来の交流展を超える新しい試みとして評価された。





○文化統合のきっかけとなる専門機関とのネットワーク

本イベントは、両国の文化的信頼と協力の場を設け、共に成長できる日韓の文化コンテンツモデルの構築を目指す実験的舞台として注目を集めた。（社）韓国キャラクター協会、（社）韓国シニア漫画家協会、（社）韓国女性ビジュアルデザイナー協会、（社）韓国スマート融合産業協会、日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）、PINなど、両国のコンテンツ関連団体の代表団が参加し、交流の幅を広げた。仁徳大学はこれをもとに、国家間の共同プロジェクトおよびビジネスネットワークの強化、さらには持続的な文化交流プラットフォームの構築を目指していく計画だ。

#日韓コンテンツ交流展 #仁徳大学 #アジョンギャラリー #SDGs